

やまきり

矢切地区社会福祉協議会

事務局 〒271-0094 松戸市上矢切 299-1 (総合福祉会館内)
編集発行 広報部 (電話 047-368-0560・FAX 兼用)

暮らしを変えたコロナ禍

新型コロナウイルス感染症は、第8波中の1月、2月だけで約1万5千人が亡くなり、4人に1人が後遺症に苦しむ恐ろしい病気です。感染対策の行動制限が続きましたが、それだけに人のつながりの大切さも感じました。この間、どんな苦勞や暮らしの変化があったのか、3人のお母さんに話し合っていたいただきました。(お名前は仮名です)

感染したときは

■林です。

私は40代で中2の息子と小4の娘、夫の4人家族です。



夫の5人です。

感染したのは2021年に高2の娘、夫は今年の初めです。

コロナは夫が2021年の夏に感染しました。息子と娘は昨年末、今年初めに順番にかかりました。夫は高熱で息苦しくなっても入院できず、自宅で診察してもらいました。子が、本当に心配でした。子どもたちの時は、症状も軽く社会的にも落ち着いていました。ただ娘はワクチンを打つかどうか迷っている時だったので、打っていない不安がありました。

■田村です。

私も40代で20歳の専門学校生、高2、中3の娘と



からなかつたので不安でした。保健所からの連絡が滞っていたし、「胸が苦しい」となっても救急病院にも繋がらない。たまたま新松戸の病院に診てもらえましたが、本当に怖かったです。

■谷川です。

夫と高校2の息子と中学2の娘がいます。年齢は40代です。



息子が昨年2月に感染。行動制限も緩くなり、周りでも何人か感染した人がいたので病院も探せました。症状は比較的軽く、熱

も1日程度。自宅療養中の息子は友達とオンラインゲーム。濃厚接触者の娘はオンライン授業。私も濃厚接触者で外出できず暇な感じでした。(笑) 隔離中の10日間は、それぞれの部屋を分け、ご飯も夫が買ってきたものを「配給」。トイレも息子と、娘と私で分けました。ちょうどオリンピックをやっていたので、まだ救われませんが、気分は落ち込んでいました。

■田村



私の時も、保健所と連絡がとれない頃で、先にかかった林さんから色々教えてもらって助かりました。食器の片付けはどうした、トイレはどうした、お風呂は、など全部聞きました。

私も濃厚接触者になり、外に出れなかったのでもらったり、ネットスーパーを使うなどしました。経験を話せる人がいて本当によかったです。

(2面に続く)

矢切地区

社会福祉協議会会長

竹内 等



新型コロナウイルス感染症が始まり、3年の月日が経過しました。

地区社協においても令和2年度、3年度につきましては活動も大幅に制限されました。

令和4年からは感染状況を見ながら徐々に活動再開をいたしました。ふれあい会食事も会食を避け、お弁当の配布を行い、お茶の間サロン、かもめの会、みんなといっしょも、再開しました。

昨年9月には「この時期だからこそ、地域の絆が大切」との思いから、感染対策をしたうえで「ふれあい広場」を矢切地区子ども会育成会と共催で開催しました。

一日でも早く、皆が笑顔で語り合える日常が戻ることを祈念しております。

子どもたちは

■谷川

私の子どもは感染者が増えつつある時期でした。学校ともパソコンでつながって色々できる状態になっていました。ただ、周りがかかったことがきっかけで学校にいけなくなった子がいました。



■林

こういうことは子どもの方が敏感ね。

■田村

学校でパソコンが導入されたけど、あれって思ってたオンライン授業を受けてたり…。お姉ちゃんが明日休むかも知れないってなった



第二中学校のパソコン使用授業

らパソコンを持って帰ってきたりとか。

■谷川

オンライン授業は、参観のように聞けて、親としては楽しかったわ。オンラインで授業参加している子に先生から「見えてるか、聞こえてるか」とかしてくれたり。

卒業式では合唱できなかったけど動画を流してくれたりとか。

■田村

先生方がよく対応してくれたね。家庭より先生の方がたいへんだったかも。

■谷川

学校でパソコンを貸してくれて学校とつながるか何度かテストしたりね。

上の子は公立高校ですが、パソコンの貸し出しもオンライン授業も無く、コロナで休んだら授業を受けられない。野放しのような感じ。

■林

小2でパソコンが支給されたけど意外とすんなりできて



ましたね。

授業で写真を撮って写真を見てコメントを入れるなど、時代なんだと思う。

■谷川

夏休みの宿題もパソコンで提出。ちゃんと写真を貼らないとダメとか。修学旅行や遠足などの写真も、パソコンで見えて選ぶようになったね。



柿ノ木台小学校1年生もパソコン使用

■田村

パソコンを使うようになったら、子ども達が本はあまり読んでないかも知れない。



特に中学生の子はパソコン画面を見るのが長くなって、本を開いて活字を読む姿しばらく見えていない。

ちよっと心配ね。

お家時間は

■谷川

行動制限が厳しかった時はインターネットで映画を見てました。子どもがすこし大きくなったので一緒に観たいものを見るようになってます。



■田村

家では皆がいたら朝昼晩のご飯作らなきゃいけないので家事が増えたね。それを皆に担当してもらったので、皆の能力が上がったし、色々気づいてくれるようになったね。

■林

家族でゲームや料理とか、皆でやるが増えました。やりたいことをそれぞれ出して、皆でやってみよう的な。家族の繋がりが深まった感じ。



■谷川

玉三白玉粉の売り上げが伸びたと聞いたし、親子で料理とかをすることが増えたのかと思う。

■田村

外食も行けないから、「親

子で作ってみよう」が増えたのかも知れないね。
続けている対策は

■谷川

手を洗ったあとのタオルはそれぞれ分ける、返ってきたら室内着に着替える。外から持ち込まないようにするのが根付いています。

■林

手洗い、うがい、消毒が染み込んでます。今後も続けます。子どもたちも「ただいま、手洗い」するようになったね。

■田村

手洗い、うがいは続けた。病院に行けなくなると怖いので、最低限の薬を用意しています。



オンラインで授業参観

コロナ禍の3年間間は子ども達にとつて大切な期間でした。中学生、小学生の様子をそれぞれの校長先生にお聞きしました。(柿ノ木台小学校の写真は同校提供)

「当たり前」の大切さを学ぶ

松戸市立第二中学校

佐野公雄校長のお話

校内の集団感染は防ぐ

学校の感染対策は文科省、教育委員会が作成したマニュアルに基づいて行っています。基本は、マスク、手洗い、換気です。

玄関、教室入り口に消毒液をおいています。教室のドアと窓を対角線で常に開け換気をしています。寒いときはエアコンをつけます。クラスで複数の生徒が発熱しても、感染源が学校でない場合は、学級閉鎖はしません。

感染や濃厚接触で自宅待



ドアを開けた各教室の前に消毒液

機になっている生徒のために、授業はカメラで先生や黒板を写し、パソコンで中継で見られるようにしています。インターネット環境がない家庭には接続機材を貸し出します。

会話を大切に、集中力高い

生徒たちは、行動制限が多かったので、何かをやるときの集中力は高いです。当たり前前に行けることの大切さがよくわかっています。

現3年生は小学校6年の最後で一斉休校になりました。5月半ばからも、しばらくは分散登校で一日おきの登校でした。中学校の入学式は7月4日。この年は運動会や修学旅行など、様々なイベントを中止。教室も職員総出で毎日消毒しました。

全校生徒が集まらない時



校舎内に貼られた会話を制限するポスター

期はクラスごと学年ごとに綱引きや大なわとびなど、いろいろなレクレーションで生徒同士のつながりを育みました。

2020年度は夏休みも本来6週間あったものが3週間に。年間を通して行事が減ったので、通年の授業時間数はとれました。

一気にパソコン利用

パソコンを使った授業は一気に進みました。現3年生が1年生だった年の1月に個人用パソコンが導入され、今も戸惑いながら利用をすすめています。

生徒はパソコンを毎日持ち帰るようにしています。なれてもらう意味もありますが、急に濃厚接触者になって登校できなくなってもパソコンを使って自宅で

授業に参加できます。

全校集会などは、カメラと教室のモニターを使い、生徒が教室にいながら行っています。

生徒の声をよく聞いて

学校内外で生徒同士で過ごす時間が少なくなりまして。それだけに不安やストレスも多くなります。

学校でも「アンテナを高く」して生徒の声に寄りそえるように努力をしています。

家庭や地域でも、元気がなくなったり、感情の起伏が激しくなったりしている生徒に気づいたら、問い詰めるのではなく、まず話を聞いて、不安な気持ちを受け止めてあげてください。

子どもの気持ちに寄りそって

松戸市立柿ノ木台小学校

常世田聡校長のお話

コロナ禍前と比べ、マス

クで口もとが見えないのでコミュニケーションが難しく感じます。

タブレットパソコンが一人一台に配備され、様々な教科で活用しています。また、プログラミング的思考を取り入れた学習等、子どもたちの意欲関心を高めつつ指導方法の改善に努めています。(4面に続く)



2月17日、6年生を送る会で全校合唱。体育館で6年生が手話を交えて歌う。各教室とはWEBでつながっている



2020年5月28日、分散登校3日目。子ども達がいらない間に消毒作業をする先生



2020年は8月24日から2学期。机を離し給食は黙食。先生の前は透明パネル、横には大型モニター

コロナ禍でお年寄りは

高齢者の環境変化と対応策を松戸市矢切地域包括支援センターの藤間佑太センター長にお聞きしました

矢切地域は高齢者も参加するサークルなどが活発な地域です。それが新型コロナウイルス感染症のひろがり、活動が長期間休止になり、高齢者自身も外出を控えるようになりました。友人や別に住む家族との交流も制限されました。

「高齢者いきいき安心センター」と名乗り、高齢者のよろず相談所です。社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員(主任ケアマネージャー)などが仕事をしています。高齢者ご本人や家族、近隣に住む方からの相談を受け、健康と生活の安全に必

要な援助を行います。「近所のお年寄りが最近元気がなくなった」などの相談があれば、「見回り」として高齢者宅を訪問します。認知症や体の体力低下などがあれば、介護などの支援につなげます。



高齢夫婦の場合も、どちらかが病気になるったり、介護が必要になったら元氣な方も負担が増え、日常生活が困難になります。どのような支援が必要か相談し、介護保険、成年後見制度など制度的支援の活用や助言などをします。

「早い相談、早い安心」同居するご家族、近所の人に求めたい事は早めの相談です。相談することだけでも安心につながります。ご近所の高齢者を見て、不安を感じたら、ご連絡をください。誰から通報があつたなどとわからないように訪問し、専門家として高齢者の様子を確認します。

若い世代の介護疲れ、青少年が家庭内介護を担うヤングケアラー問題解決の援助もできます。

矢切地区包括支援センターのご連絡は ☎0477-10-9025

学校に行きたくない時は

コロナ禍で全国的に登校が増えていきます。原因は様々です。理由を確かめずに無理に登校させれば子どもの気持ちをさらに傷つけてしまいます。学校としては、以前のように登校させることを最優先にするのではなく、学校以外でも過ごせる

場、学べる場があることも紹介しながら、子どもの気持ちに寄り添う努力をしています。松戸市にも自分のペースで学べる公立フリースクール「ふれあい学級」の制度・施設があります。仕事や生活の多様化で保護者の皆様も大変だと思えますが、学校生活を元気に

過ごすための一つとして、朝食をとることが大事ですので、ご協力をお願いいたします。また、インターネット等を使用するときは、トラブルに気をつけること、保護者とルールを決めて使用するをお願いしています。学業や健康に支障がないように適度にたのしみことが大切です。

地元で見守る民生委員

矢切地区民生委員・児童委員 竹内恵子会長、吉田順子副会長 民生委員は町会などの推薦で厚生労働大臣から委託された地域の住民です。高齢者や子どもに関する相談があれば行政につなぐ仕事をしています。矢切地区の定員は28名です。担当地域内で高齢者を見守っています。毎月1回の会合でそれぞれの担当している人について話し合います。生活保護を受けている方も見守りしますが、ご本人の意向もあり、慎重にしています。高齢世帯の増加、コロナ失業などで生活保護を受ける方は増えています。民生委員は児童委員も兼ねています。子どもの虐待など子育ての不安、安全にも対応します。

- 福井 義一様
- 松戸 誠一様
- 市川 誠一様
- 19日 誠一様
- 2月 誠一様
- 3月 誠一様
- 4月 誠一様
- 5月 誠一様
- 6月 誠一様
- 7月 誠一様
- 8月 誠一様
- 9月 誠一様
- 10月 誠一様
- 11月 誠一様
- 12月 誠一様
- 協賛 誠一様
- 協力 誠一様
- 地区 誠一様
- 河野 誠一様
- 近藤 誠一様
- 関谷 誠一様
- 関谷 誠一様
- 仲 誠一様
- ボランティア 誠一様
- 原 誠一様
- 地域 誠一様
- 古桑 誠一様
- 桑 誠一様